

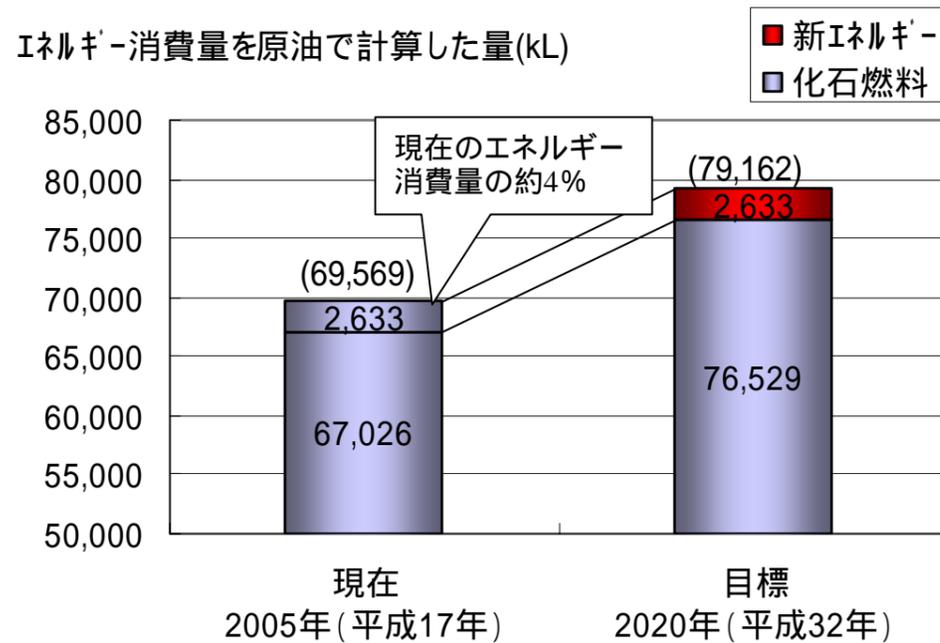
大衡村地域新エネルギービジョン【概要版】

将来、どのくらいの新エネルギーを使っていくの？

今後、多くの企業が工業団地に進出してくると考えられます。これらの工場は、多くの化石燃料を使って製品を作ります。そのため、化石燃料の代わりに新エネルギーを取り入れることが必要です。

そこで、大衡村では、2020年度（平成32年度）までに、工業団地の工場に新エネルギーを取り入れてもらい、これらの取り組みをしっかりと進めることにしました。これにより、大衡村に取り入れる新エネルギーの目標は、原油で計算すると2,633kLとなり、現在のエネルギー消費量の約4%となります。

大衡村では、こうした新エネルギーの取り組みを進めることで、環境にやさしいまちづくりを目指します。



詳しい内容を知りたい方は、村のホームページをご覧ください。

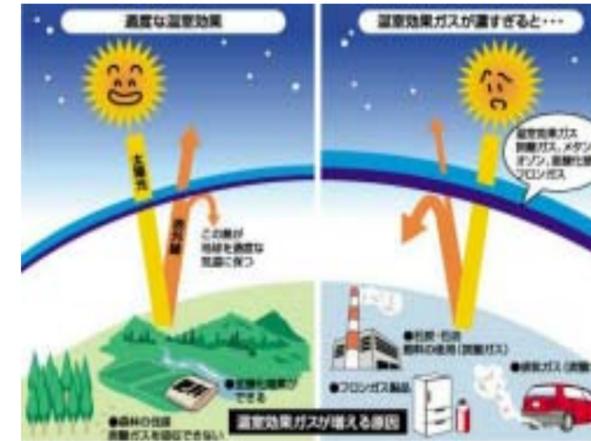
【連絡先】大衡村企画商工課

〒981-3692 宮城県黒川郡大衡村大衡字平林62番地
 電話(代表)022(345)5111 FAX022-345-4853
<http://www.village.ohira.miyagi.jp/>

このビジョンは独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の平成20年度「地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」の補助を受け、策定しました。

なぜ今、新エネルギーなの？

今、私たちは地球温暖化という大きな問題をかかえています。



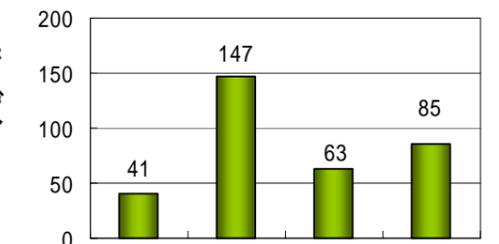
出典：経済産業省キッズページ

地球温暖化とは、化石燃料（石油、石炭など）の使いすぎにより、大気中の温室効果ガス（二酸化炭素など）の濃度が増加し、大気の温度が上昇する現象をいいます。地球温暖化により気温が上がると、今までなかった病気が発生したり、農業に悪影響が生じるといわれています。

また、地球が何億年もかけて作り出した石油や石炭などの化石燃料には、限りがあります。このままのペースで使い続けると、例えば、石油であれば約41年でなくなってしまうかもしれないといわれています。

そのため、化石燃料にたよる現状を変える必要があります。

化石燃料がなくなるまでの予想年数(年)



出典：資源エネルギー庁「日本のエネルギー2008」

私たちは何をすればいいの？

今の私たちの生活は、エネルギーとして化石燃料を使うことになりつつあります。しかし、化石燃料をたくさん使い続けてきたために温室効果ガスが増加しすぎて地球温暖化を引き起こしたと言われています。

そのため、エネルギーを大切に使うことや、化石燃料のかわりに二酸化炭素を排出しない新エネルギーを使うなど、環境にやさしい暮らしをすることが求められています。

新エネルギーとは、太陽光、木、米、天ぷら油などから作られるエネルギーのことをいいますよ！

このようなことから、大衡村では新エネルギーを取り入れ、環境にやさしいまちづくりをめざすために「大衡村地域新エネルギービジョン」を作りました。

ビジョンとは、将来の計画や目標をまとめたものです。

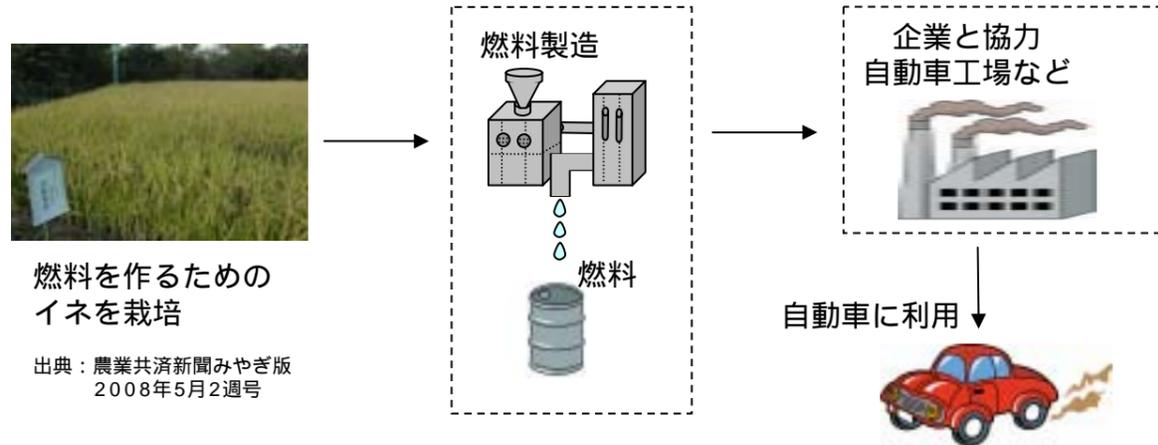
今後は、大衡村らしさを生かした新エネルギーを取り入れ、「まちおこし」にも活用していきます。



どのような新エネルギーを取り入れるの？

使われていない田んぼでイネを栽培し、そのお米から燃料を作ります。米やとうもろこしなどのデンプンから、燃料（アルコール）を作ることができます。大衡村でも2007年（平成19年）より、お米から燃料を作るための研究がスタートしています。

また、村内の工業団地には、大規模な自動車工場が建設されることになっており、2010年（平成22年）には生産開始が予定されています。将来的には、この工場で生産された自動車の燃料に大衡村のお米から作った燃料をまぜて、化石燃料の使用を減らしていきたいと考えています。



燃料を作るためのイネを栽培

出典：農業共済新聞みやぎ版
2008年5月2週号

太陽光発電を取り入れます



出典：新エネルギー財団

新エネルギーの取り組みとして、まず、太陽光発電が挙げられます。

住民アンケートを行ったところ、太陽光発電を取り入れたいという意見が数多くありました。そのため、一般家庭で太陽光発電を取り入れる時には、その費用の一部を補助する制度の検討を進めます。

工場に新エネルギーの導入を働きかけます



出典：大衡村

大衡村には数多くの工場があり、多くのエネルギーが使われています。

これらの工場に対しては、地球の環境を守るために、太陽光発電などの新エネルギーを取り入れてもらうよう、働きかけていきます。

木を燃料として利用します

村内には森林が多く、この木を加工する製材所から発生する木くずを燃料として使います。

大衡村では、野菜などの温室栽培で多くの化石燃料が使われています。そのため、この化石燃料のかわりに、製材所から発生する木くずから作った燃料を利用していきます。

この取り組みによって減らすことができた二酸化炭素で、「カーボンオフセット」ができるかもしれません。

カーボンオフセットとは、企業などが出す二酸化炭素のうち、どうしても減らすことができない量を、お金で買うことをいいます。



天ぷら油で自動車を走らせます

天ぷら油などの植物性油から作る燃料をBDF（バイオディーゼル燃料）といい、軽油の代わりに使用できます。



出典：NEDO

そこで、小中学校の給食を作っている給食センターで使い終わった天ぷら油からBDFを作り、給食配送トラックの燃料として利用します。

将来的には、一般家庭や工業団地にある食品加工業者から発生する天ぷら油もBDF化し、役場の公用車や一般車の燃料として利用を考えます。

エネルギーや環境について楽しく学びます

美しい地球を守り、大衡村の未来をつくるには、私たち一人ひとりの力が必要です。



出典：東北電力

そのためには、私たちがエネルギーの大切さや上手な使い方を知る必要があります。

このようなことから、小中学校ではエネルギーと環境について考える時間を作り、楽しみながら学習を行うことができるようなエネルギー・環境学習を行います。